

齋藤榮二先生に心から感謝を込めて



平成18年度末をもって、我々の敬愛する齋藤榮二先生が関西大学を定年退職なさいます。齋藤先生は、大学院外国語教育学研究科の初代研究科長として、2期3年にわたり揺籃期にあった研究科のかじ取りという大変な重責を担われました。この間、筆者は研究科長代理として、先生と仕事を共にする機会に恵まれましたが、いつも笑みを絶やさず、悪口や愚痴を決して言わず、常に前向きに進まれる先生のお姿を側で拝見でき、本当に良い体験をさせていただけたと感謝しております。

筆者は多くのことを先生から学ばせていただきました。その中でも、ある時私に語られた次の言葉は、今も大切にしています。

Let them say what they want to say;

Let us do what we have to do.

この言葉は私ひとりだけではなく、我々の組織全体にとっても、これからの指針として大切にしていけるべきものだと感じています。

齋藤先生は精神的なリーダーであると同時に、実質的なリーダーでもありました。創設5年目をようやく迎えようとする若い研究科が、平成17年度教員養成Good Practice (GP)、平成17年度・18年度文部科学省委嘱「英語指導力開発ワークショップ」事業など競争的外部資金を次々に獲得できたのは、ひとえに齋藤先生のご尽力とご指導のおかげであったといえるでしょう。また、教員養成GP獲得を機に設置いただいた「英語教育連環センター」(e-LINC)は、「英語教育の関大」と識者からいわれるようにしようと奮闘してこられた先生のご努力の結晶ともいえるもので、地域の学校との連携や英語教員養成の分野で着実に成果を上げ始めています。この成果を見るにつけ、「英語教育の関大」といわれる日はそう遠くないと筆者は確信しています。

ようやく揺籃期を脱したとはいえ、まだ十分に安定したとはいえない我々の組織としては、先生のご退職は大きな痛手であります。しかしながら、こればかりは抗えません。残された我々は、先生が在籍された5年の間に学ばせていただいた多くの貴重な教を大切に、研鑽を重ねながら着実に前進していきたいと思えます。齋藤先生、本当にありがとうございました。そして、これからも我々の組織と修了生を暖かくお見守りください。

平成19年1月7日

竹内 理

齋藤榮二教授略歴及び主要業績

略歴及び業績一覧

1937年4月1日 福島県に生まれる

学 歴

1960年3月 福島大学学芸学部卒業
1971年6月 ハワイ大学大学院言語学科入学
1973年1月 ハワイ大学大学院言語学科修了

職 歴

1955年4月 安藤工事株式会社勤務
1960年4月 福島県伊達郡川俣町立飯坂小学校教諭
1962年4月 福島県信夫郡信夫村立信夫中学校教諭
1968年4月 福島県立安達高等学校および二本松工業高等学校教諭
1973年4月 福島県立福島女子高等学校教諭
1977年4月 福島県教育センター長期研修生
1979年4月 桜の聖母短期大学助教授（英語科教育法）
1981年4月 福島大学教育学部・経済学部非常勤講師（一般英語）
1985年4月 桜の聖母短期大学教授（英語科教育法）
1986年4月 筑波大学大学院非常勤講師（授業担当科目）授業分析集中講義
1987年4月 京都教育大学大学院・教育学専修科英語専任教授（授業担当科目）英語科教育特論1、英語科教育特別演習、英語科教育特別研究、
1987年4月 京都教育大学教育学部（英語科教育法）
1987年8月 筑波大学大学院非常勤講師（授業担当科目）英語科教材論集中講義
1987年4月 摂南大学非常勤講師（一般英語）
1989年4月 京都府立大学非常勤講師（英語科教育法）
1990年4月 岡山大学大学院非常勤講師（授業担当科目）input理論集中講義
1991年4月 奈良教育大学大学院非常勤講師（授業担当科目）input理論集中講義
1993年3月 京都教育大学学生部長
1995年4月 京都教育大学付属京都中学校校長

- 1995年4月 平安女学院大学教授 (英語科教育法)
1995年4月 京都教育大学名誉教授
2001年4月 関西大学教授 (英語科教育法) 関西大学大学院教授 (英語科教育法) 関西大学教育学研究科科長
2005年4月 関西大学英語教育連環センター長

著述目録

著書

英語を好きにさせる授業

単著 昭和59年 大修館書店

北国に芽ぶく英語教育—英語教育実践風土記—

共著 (安藤勝也, 高梨庸夫, 吉田孝一, 平間一夫, 佐野正之ほか24名) 昭和59年 三友社出版

新しい英語科授業の創造—インプット理論とその実践—

共著 (斎藤栄二, 高梨庸夫, 森永正春, 渡辺時夫) 昭和61年 桐原書店

英語の教え方を考える

単著 昭和61年 三省堂

〈文部省中学校用英語教科書〉

New Crown English Series. ①

New Crown English Series. ②

New Crown English Series. ③

共著 (若林俊輔ほか19名) 昭和62年 三省堂

第1巻 日本の英語教育 第2章 教授法の流れと課題

共著 昭和63年 三友社

国際理解教育の進め方 (実践編)

共著 (斎藤栄二ほか5名) 昭和63年 福島県教育委員会

インプット理論の授業—英語教育の転換を探る—

共著 (渡辺時夫, 森永正治, 高梨庸夫, 斎藤栄二) 昭和63年 三省堂

〈文部省検定済高等学校英語教科書〉

Ocean English Series 1

Ocean English Series 2

〈文部省検定済高等学校英語教科書〉

Orbit Writing 共著 (青木庸効ほか5名) 平成3年 三省堂

文部省検定済高校生を対象とするライティング用教科書

〈文部省検定済中学校用英語教科書〉

New Crown English Series ①

New Crown English Series ②

New Crown English Series ③

共著（森住衛ほか30名） 平成8年 三省堂

〈文部省検定済高等学校英語教科書〉

Orbit English Series 1

共著（高梨庸夫ほか2名） 平成8年 三省堂

英語授業レベルアップの基礎

単著 平成8年3月 大体修館

英語授業レベルアップの基礎

単著 平成8年3月 大体修館

新しい読みの指導

共著（渡辺時夫ほか9名） 平成8年 三省堂

英文和訳から直読直解への指導

単著 平成8年7月 研究社

英語授業成功への実践

単著 平成10年 大修館

〈文部省検定済高等学校英語教科書〉

Orbit English Series ①

「学習者論」展開の必要性

論文 昭和55年 「英語教育」大修館

新学習指導要領解説 高校編

論文 「英語教育ジャーナル」三省堂

生徒は話せるようになりたがっている—One minute speech論—

論文 昭和55年 「英語教育ジャーナル」三省堂

入門期から文字指導を生かす

論文 昭和55年 「現代英語教育」研究社

結果の評価と過程重視の評価

論文 昭和55年 「英語教育」大修館

英語学習に興味や意欲を持たせるために—1人でできる授業診断—

論文 昭和55年 「所報」福島県教育センター諸16.

書くことの指導試論

論文 昭和56年 「現代英語教育」研究社

総合指導制から領域別指導制へ

論文 昭和56年 「英語教育」大修館書店

根拠が薄い学年指定—時制—

論文 昭和56年 「英語教育ジャーナル」三省堂

受信技能より発信技能か

論文 昭和56年 「現代英語教育」研究社

「英語で考えること」について

論文 昭和56年 東北英語教育学会紀要No.3

教材を探して—英語教育のスタートとして—

論文 昭和57年 「英語教育ジャーナル」三省度堂

Listeningを独立した学習活動に—聴解力レベルの設定—

論文 昭和57年 「現代英語教育」研究社

Study of Difference in the Degree and Accuracy of Understanding between Those Who look up

Words in English-English Dictionaries and Those Who Look Them up in English-Japanese

Dictionaries 単著 昭和57年12月 「桜の聖母短期大学紀要第7号」

短大生の異文化体験

共著 (樋口勝也、斎藤栄二) 昭和57年 「桜の聖母短期大学紀要第7号」

音声指導に関する1つの提案—listeningと学習活動の個別化—

論文 昭和58年 「現代英語教育」研究社

やる気をいかに起こさせるか

論文 昭和58年 「英語教育」大修館

嫌われる教師の特徴

論文 昭和58年 「言葉と教育」三省堂

学習者のニーズに直結した英語の指導

論文 昭和59年 「英語教育」大修館

Listening増強力のポイント

論文 昭和59年 「English Journal」アルク社

何をどのように定着させるか

論文 昭和59年 「英語教育」大修館

中学レベルの基礎学力再考

論文 昭和59年 「英語の窓」中教出版

こうすれば授業は活性化する—言語習得理論にのっとって—

論文 昭和60年 「英語教育」大修館

英ギライから英語好きへ—どのような教師が好かれるか—

論文 昭和60年 「英語教育」大修館
教材と指導法の改革—英語教育常識再検討—
論文 昭和60年 「現代英語教育」研究社
ファースト英和辞典
辞書（中村敬ほか21名） 昭和61年 三省堂
Reading for pleasure—A Variety of Easy and Interesting Stories—
共著（斎藤栄二ほか3名） 昭和62年 三友
生徒にとって魅力ある教材
論文 昭和62年 「現代英語教育」研究社
Input理論入門講座 —AcquisitionとLearningの違いをどう受け止めるか(1)—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社
Input理論入門講座 —AcquisitionとLearningの違いをどう受け止めるか(2)—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社
Input理論入門講座 —モニター仮説の意味—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社
Input理論入門講座 —The Input Hypothesisの授業に及ぼす影響—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社—
Input理論入門講座 —「I + 1」の持つ意味—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社—
Input理論入門講座 —The Affective Filter Hypothesis—
解説論文 昭和62年 「新英語教育」三友社—
英語教師のための読解セミナー—William LittlewoodのCommunicative Language Teachingを
読む— 書評 昭和63年 「新英語教育」三友社
中学校における「聞き・話すこと」の目標
論文 昭和63年 「英語教育」大修館
AETを迎えて明らかになった日本の英語教育の問題点
論文 平成元年 「語研ニュースレター」語学教育研究所
外国人講師とのよりよい授業のあり方を探る
論文 平成元年 「英語教育」大修館
コミュニケーションの力を伸ばすためのAETの活用
論文 平成元年 「英語教育研究」日本英語教育学会関西支部紀要
授業の活性化のために—Structure Making Gameの薦め—
論文 平成元年 「現代英語教育」研究社
ファースト和英辞典

辞書 (中村敬ほか21名) 平成元年 三省堂

Culture Timeの薦め

論文 平成元年 日本教育書籍

外国人講師と日本人講師

論文 平成2年 「現代英語教育」研究社

AETとの共同授業について

論文 平成2年 「英語教育」大修館

聞くことの重要性

論文 平成3年 「LL教育研究」

人はどのようにして言語を習得するか

論文 平成3年 「言葉と教育」三省堂

コミュニケーションの力を伸ばすための文法

論文 平成3年 「英語教育」三省堂

自由研究の方法とテーマ選び

論文 平成3年 「英語教育」大修館

学習意欲を高める教材・教案

論文 平成3年 「現代英語教育」研究社

再入門引の手引き

論文 平成3年 「現代英語教育」研究社

困難校の英語教育

論文 平成4年 「現代英語教育」研究社

Dictation再考 論文 平成4年 「日本英語教育学会関西支部紀要」

指導力アップにつながる自己研修

論文 平成4年 「英語教育」大修館

Authentic音声の重要性

論文 平成4年 「語学のラボラトリー学会関西支部紀要」

生徒の知的関心と言語材料のギャップ

論文 平成6年 「現代英語教育」研究社

(以上全部ではありません。主なものをあげさせていただきました。)